

# 松禪寺報

石室山松禪寺

住職 高橋 乾峰

〒668-0363

兵庫県豊岡市但東町栗尾 469

電話 0796-55-0034

FAX 0796-55-0066

Mail kenpou@syozen.com

<http://syozen.com>

第38号

発行 平成21年12月20日

## 大いなる心に抱かれ除夜の鐘

今年も残り少なくなりました。

地デジやエコなどと、暮らして便利になるようなものが近代化して便利になるようですが、その一方で大らかな優しい心を見失う事件が相次いだ年でもありました。

今年の六月に沖繩県石垣市を訪れた時のことです。タクシーの運転手さんが、この島では車のクラクションを聞いたことがないと言います。島の皆さんはとても大らかな心で運転されているのでしょうか。私も滞在中にクラクションは一度も聞きませんでしたし、地元の和尚さんの車を借りて市内を運転しましたが、行き先不明のノロノロ運転で他の車の流れを塞いでいましたが、のろまな私をじっと見守っていてくれたように思いました。

**おほどかに更けゆく夜が起きあつ  
つ、年あらたまる鐘の音聞ゆ** (釈  
道空)

民俗学者や詩人など多彩な顔をもつ国文学者・折口信夫（おりぐち・しのぶ）の歌です。「おほど

か」とは、

「おおどか」でおつとりしているさま、お

おらかなという意味でしょう。師

走と聞くだけで慌ただしさを感ぜますが、まさに年越し準備で走り回るほどの忙しさ、あるいは一年といえどもあわただしく過ぎてしまふといった騒がしさを感ぜます。そんな中で、大晦日の夜空に除夜の鐘が響くころには過ぎゆく年を顧み、静かに正月を迎えようとする人の気持ち、時のあわただしさを止めて穏やかな心を取り戻そうとするのでしよう。

**大いなるかな心や。天の高さは極  
むべからず。而るに心は天の上に  
出ず。** (明庵栄西)

鎌倉初期の僧で日本臨済宗の祖といわれる栄西禪師の言葉です。



←石垣市

「心とはなんと広大なものよ。天空の高さはその極限をきわめることができないが、それなのに心は天の高さを超えてさらにその上に出る。」と解釈されています。人間は生れながらにして広大で清浄無垢な心を持っていてと説かれ、妙心寺派管長などを歴任された山田無文老師（1900～1989）は、この心を「赤子の心は無」と説かれました。赤ちゃんは無心に笑い、無心に泣き、無心に母乳を求め、そして自分の意見を持たない、それが汚れのない仏の心に通じると言われます。しかし、私たちは大人になるにつれてさまざま知識や経験を身につけていき、本来清浄な心の上から次に欲望などの汚れを上塗りしているのです。

家族と共に暖かい部屋で聴く鐘の音、あるいは寒風のなかで自ら撞く鐘の音、除夜の鐘の静かな音は、あわただしかった一年を振り返るにふさわしいリズムとなりま

す。それは、「おほどか」という言葉の響きにもなり、私たち本来の「大いなる心」に気づかせてくれることでしょう。

# 心友 (しんゆう)

城願寺住職 五葉光鐵師 (愛媛県大洲市)

今年もいよいよおしまいです。皆さんも、この一年間にはいろいろと忘れられないできごとがあつたでしょう。楽しかったことや悲しかったことなど、良きにつけ悪きにつけいろんなことがあつたと思います。

お釈迦さまは、諸行無常(しよぎようむじよう)といつて、すべてのものは移り変わると言われました。分かりやすくいうと「人生はグーチョキパー」ということなのです。すなわち「グーはチョキに勝つけれどもパーには負ける。でもそのパーもチョキには負けると言うように、人生いつまでもいいことばかり続くわけじゃないし、反対にづらい事もいつまでも続く



わけではありません。だからどんなにづらくても、そのうちにまたいい事もあるわけだから、あまり深く悩まないで気楽にね」と。しかし、いくら「気楽にね」と

いつても、心はコロコロ変わるからコロコロとも言われるとおり、やっぱり何かある度にゆれ動き、なかなか気楽にいけないのが私たちの心です。

私たちの心をかえり見ると、正直おどろきます。一人ぼっちになると淋しくなつて人恋しくなる自分。そのくせみんなと一緒にだど、すぐにまた一人になりたがる自分。

自分の意見に賛成されるとうれしくなる自分。しかし反対



されたり批判されるとカッと頭にくる自分。

自分の好きな事には夢中になり楽しくなる自分。ところがいやな事には、すぐにブツブツ文句言ったりくさったりする自分。このように私たちの心を見つめると、一人の人間なのに、心の中にはいろんな自分が住んでいて、それがコロコロと入れかわります。これではいつたい、どれが自分の本当の心なのかサツパリ分かりません。むかし、臨濟(りんざい)とい

## 自ら輝いている

### みんなの心には

### 他人を思いやるやさしい心が

うお坊さんが、無位の真人(むいのしんにん)といわれました。それは感情に走ろうとする自分を、「おい、ちよつとまでよ！」と心のおくそこから冷静に見つめ、いさめてくれるもう一人の自分がいるのだと。たとえばみなさんも、苦しい時やつらい時に、心のどこかで「もうちよつとがんばろうよ」というささやきが聞こえた事がある

でしょう。じつはその声は、あなたの心の中から聞こえてきたものなのです。その声こそ、みんなの心の中にいる「もう一人の自分」の声なのです。

これがなまみの友だちだと、引越したり転

校して別れたりすると会えなくなり、ケンカをされると口も聞かなくなったりしますが、この心の中の友達だけはどっかに行ってしまうたりすることはないので。誰もが、一生にたった一人だけが、死ぬまでつきあってくれる本当の友人なのです。これを心友（しんゆう）といいます。心の中において、本当に信じる事ができる友人と言うわけなのです。

皆さんは、一休さんのテレビを見たことがあると思いますが、何か困った問題が起きるとしずかに考えて答えを出します。一休さんもやはり同じように、心の中の心友に相談していたのですね。



一休さんのように、皆さんも何か困った事ができたりつらくなったり時には、背すじをのぼしておへその下にぐっと力を入れ、ゆっくり二、三回深呼吸をして下さい。すると、すーっと気持ちが落ち着いてきます。その落ち着いた気持ちで、自分の心の中の心友に相談してみてください。きつといい答えを出してくれるはずですよ。この心友との対話がスムーズにいけば、あなたの人生が楽しくなってきました。（ごよう・こうてつ）

※この法話は、子ども向けとして妙心寺ホームページに掲載されたものを、五葉師の了解を得て掲載いたしました。

# 達磨忌と開山忌を営みました

皆さんから寄せられた米と野菜で「けんちん汁」をつくりお供えして

禅宗の第一祖である達磨大師の法要を11月3日、松禪寺檀信徒皆さんと一緒に執り行うと共に、併せて松禪寺の開山忌を営みました。午前8時から当番さんたちが集まって、お昼に参拝者にお出しする食事作りが始まり、ふだん静かなお寺も活気が増します。



▲すべて自然の恵みです。有難くいただきました。

ふき大根、大根の皮のきんぴらなど、檀家さんから寄せられた米と野菜をふんだんに使ったおいしい料理ができあがり、ありがたかったです。

約30人のお参りで午前11時から本堂において法要を執り行い、その後は齋座です。当番さんたち手づくりのけんちん汁、茶飯、白和えのほか、寺庭が炊いた豆やふろ



▲松禪寺本堂の荘厳

この行事は二祖忌といって、禅寺ではとても大切なものです。達磨大師の寂年は定かではありませんが、今日禅寺では10月5日を忌日としています。当山では昔から一月遅れのこの時期に営んできました。禅宗の初祖として、このような報恩の行事が全国で行われています。ぜひ、来年もお参りください。なお、当日は西谷の桂昌寺でも、午後6時から達磨忌を営みました。

大晦日

### 除夜の鐘を 撞きませんか



行く年来る年、大晦日は除夜の鐘を撞いてみませんか。今年も大晦日には、お参りの皆さんによって除夜の鐘を撞きます。

除夜とは、除日(じょじつ)の夜といい、旧年を除く日と辞書にはあります。その夜に鳴らす「除夜の鐘」は、年を越すにあたり人の心にある百八つの煩惱を清らかな鐘の響きで鎮め、新しい気持ちで新年を迎えようとする仏事のひとつです。

**12月31日(木)の午後11時45分**頃から撞き始める予定です。本堂、薬師堂へのお参りもできません。温かい飲み物なども用意していますので、ぜひお参りください。

### お願いとお知らせ

#### ◆新年度の評議員について

評議員(14名)については一年で交代される地区が多いのですが、新たに評議員となられた方のお名前の報告を速やかにお寺までお願いいたします。評議員総会は、明年2月中旬頃を予定しています。

#### ◆年頭について

正月2日(土)より年頭に各檀家さんを回らせていただきます。

### 境内地の静寂に心やすらく霊園



▲明るく静かな松禪寺霊園

## 松禪寺霊園のご案内

2日は但東町内を回り、それ以外は3日(日)に回りますので、よろしく願いいたします。

### 四国八十八カ所霊場

#### 巡拝のご案内

当山では平成22年より平成24年にかけて、約10回にわたる「四国八十八カ所霊場巡拝」を企画いたしました。第一回の予定は次のとおりです。阿波の国(徳島県)17ヶ寺を巡拝します。一人でも多くのご参加をお待ちしています。  
日時 平成22年4月26日(月)〜

松禪寺霊園の使用者を募集しています。お寺の境内地ですので、維持管理はお寺が行います。駐車場のすぐ側にありますので、足の悪い人、車いすを使用される人でも安心してお参りできます。松禪寺の檀家、あるいは今後檀家になつていただける人を対象にしています。お問い合わせ、使用ご希望のご相談は、松禪寺か総代役員にお願いいたします。

27日(火)一泊二日  
参加費 2万7千円(納経物、納経料は含みません)  
申込締切 平成22年3月31日まで  
日程の詳しい資料は別の案内書をご覧ください。

## 平成二十二年 年忌法要

平成22年(二〇一〇年)に年忌法要を迎える故人の歿年度は左記のとおりです。法要の実施日については、なるべく早めにご連絡ください。年忌正当年にあたられるご先祖様がおられるかの確認は、寺へ電話でお尋ねくださるか、年忌操出(ねんきくりだし)を本堂に張り出していますので、寺にお越しの際にご覧ください。

#### 【平成22年度年回表】

- 一周忌 平成21年没
- 三回忌 平成20年没
- 七回忌 平成16年没
- 十三回忌 平成10年没
- 十七回忌 平成6年没
- 二十五回忌 昭和61年没
- 三十三回忌 昭和53年没
- 五十回忌 昭和36年没
- 百回忌 明治44年没